

審査員講評

課題のシーンについて

まずは受賞者の皆さん、おめでとうございます。そして本英語字幕コンテストにご参加いただいた皆さん、ありがとうございました。本コンテストでは言葉選び、改行のバランス、文字数制限の遵守、そして視聴者にとって分かりやすく必要なニュアンスを伝えられているかという点に注目をして審査をしました。またセリフが自然であり、登場人物の性格や口調を掴み、砕けすぎているという点もポイントでした。

課題として抜粋されたシーンは、一見シンプルです。しかし注意して見ないと見落としてしまうような細かいポイントがいくつもあります。まず、正実の最初のセリフからは、彼女がレンゲに麺を乗せて食べるラーメン評論家の女性に対してコメントをしていることがわかります。正実が評論家へ疑いを示すと、マリリンは評論家について「非常に優秀なラーメン評論家」だとかばいながらも、欠点があると云います。マリリンはこのセリフを言いながら、指で「1」を示します。このセリフの訳し方には様々な選択肢がありますが、最も有効なアプローチは、主語を正しく捉え、「非常に優秀な」のニュアンスを入れ、さらに“one flaw”や“one quirk”というフレーズをマリリンの手振りに合わせて出すことです。

次に複雑なセリフは5つ目です。原文は「ラーメン評論家が麺すすれないとはどういうことだ」というものです。文字通りに訳しても間違いではありません。しかしラーメンの批評において麺をすすることがなぜ重要であるかという情報が加わると、ラーメンに馴染みのない文化圏の視聴者にとっても分かりやすくなります。正実が麺をすすれないラーメン評論家に対して懐疑的になる理由が伝わるのです。字幕は自分のペースで読み進められる文書の翻訳とは異なり、一度しか表示されません。それも一瞬です。しかし字幕の翻訳作業に取り組んでいる最中は、そのことをつい忘れがちになってしまいます。映像翻訳では今回のように、翻訳そのものの以外の部分にも気をつける必要があるのです。そのような配慮が、良い字幕と視聴者に負担をかけない優れた字幕の分かれ目になります。

—永山南海子